

新年あけまして おめでとうございます。

2008年が良い年になりますようお祈り致します。



1月の季語 ごまめ

五万米(ごまめ)は、小さな片口鰯の素干しのこと。昔、田んぼの肥料に使ったことから、**田作**(たづくり)とも呼び、「**豊年豊作**」の願いを込めて、**御節**に加えます。同じ片口鰯のもっと幼いものは**豊鰯**(たたまいわし)やシラス干しになり、大きなものは**目刺し**になります。

「お正月の花」縁起かつぎ

松 常緑であることから永遠の若さ、不老長寿の象徴。
竹 あっという間に伸びることから、威勢が良い、青々として清浄である。
梅 寒い冬に咲くことから、忍耐。
四君子 菊、蘭、梅、竹の4種を、高潔な君子に見立てる。
南天 「ナンテン」=難を転じる。
橙 「ダイダイ」=代々として、子孫繁栄。
金柑 黄金色の実がたわわに実ることから、福德。
万両、千両などの赤い実は、子孫繁栄、商売繁盛。

福寿草は、キンポウゲ科の多年草。別名は元日草ともいい、初春を祝う花として、鉢植えが出回る。



何年か前に、鉢物を庭に植えたところうまく根付いて毎年、株を大きくしている。根に「アドニン」という毒成分を含むので食べるのは危険。

やさしいオーガニック

有機栽培や天然由来の材料だけ使った口ハス商品やオーガニック商品といわれるものは、健康志向やエコ志向に適うとして増えているが、商品が充実している割には、なんだかわかりにくい、とも言われている。どう選んだらいいの？普通のものとは比べてどう違うの？そこで、オーガニックコットンを例に「オーガニック商品のどこがわかりにくいのか」を考えてみた。

コットン(綿花)の中でも有機栽培されたものをオーガニックコットンという。このオーガニックコットンの基準は、<3年間農薬や化学肥料を使わなかった土地で、農薬や化学肥料を使わないで栽培するコットンである>というもの。出産祝いに贈るベビー服などに好まれる素材で、<肌にやさしいオーガニックコットン>というイメージがある。赤ちゃんに優しいのだから、私にもやさしいはずと、つい思ってしまうが、しかし、コットンの柔らかさ(肌触りのやさしさ)は、糸が細く長く紡がれる(超長綿)ことによって実現するものなので、オーガニックかどうかとは、関係がない。また、農薬などの刺激がない(肌への刺激がないやさしさ)という点では、一般農法のコットンでも製品になるまでの間に「洗い」や「染色加工」を経るため、残留農薬の心配はないとされていて、この点もオーガニックかどうかとは関係がない。(これに関して、認証機関のNPO日本オーガニックコットン協会では「一般農法でも残留農薬は少ないので、収穫されたものを科学的なテストでオーガニックかどうかを判別することは難しい」としている。)

ということは、一般農法のコットンとオーガニックコットンの「着る人へのやさしさ」には差がないことになる。う~?

では、オーガニックコットンにはどんな良さがあるのか？オーガニックコットンは農薬や化学肥料を使わずに栽培するから<農地(地球)と農民(栽培農家と近隣住民)を農薬で痛めることがない>という良さがある。

つまり、「私」がオーガニックコットンを選ぶ理由としての的を得ているのは、<農薬などの健康被害から栽培農家を守り、土壌汚染から地球を守るために、オーガニックコットン栽培を支援して、選ぶ>という考えになる。

オーガニックコットンがやさしいのは「買う私」にではなく、「作る人」や「環境」にやさしいのだ！いや~、私はしっかり理解していなかった。

こういうことが、オーガニックコットンの商品説明などの目に付くところに書かれていることはないでしょう？

販売側は、長くなりがちの説明をはしょっているのかもしれないけれど、これからは、「いい加減な理解ではなく、きちんと理解して買いたい」と考える人が増えると思うし、そのための対応をしないと商品も大きく育たないと思う。

綿花(めんか)

綿花は花ではなく、実の中身をさす言葉。

ワタは、アオイ科ワタ属の多年草で、夏に芙蓉に似た美しい花を咲かせる。花の後にできる実は初秋に成熟し、はじけた中から白い綿の繊維があふれ出る、これが綿花(コットンボール)。綿花がはじける頃の綿畑は、白い花が咲いたようにも、雪をかぶったようにも見える。